111 学年度第一学期ユーラシア財団（from Asia）国際講座
「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」シリーズ講座（6）
題目：日本語と閩南語、客家語は家族である

中国文化大学 111 学年度ユーラシア財団（from Asia）国際講座の第六回目は東呉大学日本語文学科主任教授の羅濟立先生による「日本語と閩南語、客家語は家族である」という題目でのご講演であった。羅先生は客家人であり、母語である客家語と日本語のバイリンガルである長所を生かし、長年にわたり日治時代の客家語資料の分析・研究に注力し、台湾客家語教育にも積極的に取り組み、2013 年には客家委員会の「客家語伝道教師」資格を取得されている。今回の講演では、まず日本語・台湾語・台湾客家語の共通語彙の紹介から始め、それらの語彙の特徴を分析し、共通語彙を日本語学習にどのように使用するのか考える。

日本語・台湾語・台湾客家語の共通語彙

明治維新後、日本人は漢字による翻訳や造語を駆使して西洋の新しい知識や概念を反映した「科学」や「社会」などの近現代日本語を数多く生み出し、あるいは 1980 年代以降、台湾との文化交流が密接になり、日本文化の現代日本語語彙が直接反映するようになった。同形異義語の形で台湾語と台湾客家語に入ったり、台湾語と台湾客家語で直接発音されたりする日本文化の日本語語彙がある。これは言葉の「借家」関係であり、「日本語・台湾語・台湾客家語の同形異義語」は「遠い親戚・隣人」の「相同」関係と言える。

例えば、「アルミニウム(缶)」は日本語の「アルミ」、台湾語の「a33 lu55 mih3」、客家語も同様に「阿路米 a11 lu55 mi31」という。また、「公司」という台湾華語（国語）語彙は日本語で「会社 kai-sya」というが、台湾語も台湾客家語も同様に、それぞれ「會社 hue33 sia33」「會社 fi55 sa55」という。我々は、このような語彙を「共通語彙」と呼ぶことができる。つまり、発音が似ていたり、意味や形が基本的に同じだったりする語彙が日本語と台湾語と台湾客家語の「共通語彙」なのである。現在、台湾で通用している台湾語と台湾客家語と日本語の間にはかなりの数の共通語彙があり、日本語と台湾語、台湾客家語がいわば家族の一員であることを示している。

「日本語・台湾語・台湾客家語の共通語彙対照表」と日本語教育

一般的な語彙の知識を使用することは学習者がお互いの言語を学習するのに役立つ学習ストラテジーとして使用できる。この講演の目的は共通語彙の知識が台湾の日本語学習者にどの程度役立つのかを明らかにすることである。まず発音が似ている常用語彙について考察し、「日本語と台湾語と台湾客家語の共通語彙対照表」を作成し、その語彙と意味分類の分析、以前の日本語能力試験（JLPT）

出題基準との比較を通じて、同時学習用の副教材とする可能性を検討する。

その結果、以下の 5 つの結論が得られた。(1) 発音上の共通語彙が多いことが確認され、その整理の結果、共通語彙 136 語が得られ、発音類似語として組み込まれた。(2) 発音類似する 3 語共通語彙で日本語の語種タイプで最も多数である語彙は外来語であり、67%を占めている。また、台湾や客家系の人々は日本の外来語を通じて多くの西洋文化を吸収してきたともいえる。日本語学習者は本表の発音と母語話者の発音の類似性を利用して、より多くのカタカナ語彙学習のソースを取得し、初期段階のカタカナ語彙学習に対する不安を解消し、学習効率を向上させることができる。(3) 発音類似の「3 語共通語彙」は飲食物、リゾート娯楽、交通機関、道具、及びファッション、美容などの「生活語彙」が中心であり、政治、経済、科学技術等の領域の語彙は少ない。用語は国際的な共通語彙と同じくすべて名詞である。(4) 発音類似の「3 語共通語彙」の 64%が旧出題基準の一般語彙（1 級から 4 級まで）の中に出現する。基準に含まれていなかった 49 語のうち、39 語は国立国語研究所の「教育基礎語彙（2009 年）」に、4 語は『Wiktionary：日本語の基本語彙 1000』の中に掲載されている。つまり、発音類似の「3 語共通語彙」は教育や社会生活に欠かせない語彙が含まれているのである。(5) 台湾語・台湾客家語の話者が日本語を学習する場合、発音類似の「3 語共通語彙対照表」を使用することで発音と意味を共通させて連想することを通じて、学習速度が加速する。

最後に羅先生は、次の 4 点に注意する必要があることを忘れずに伝えた。(1) 日本語の発音とイントネーションを正しく学ぶ際には台湾語と台湾客家語の悪影響を受けないようにすること。(2) 意味を正しく認識する。(3) 日本語の仮名のスペルと字形を覚えること。(4) 母語と外国語の学習における相互扶助の効果を達成するために各語彙を考え、確認すること。

（ウェブサイト：https://eurasia.pccu.edu.tw/index.php）

（原文原稿：鍾季儒　日本語文学科助理教授、日本語翻訳：齋藤正志　日本語文学科教授）